

第15回

- 講演者: 三上 敏夫 氏 (津田塾大学)
 - 題目: 確率最適輸送問題について
 - 日時: 平成28年11月10日 (木) 16:30 - 17:30

E. Schrödinger の量子力学[Schrödinger 方程式の解の Born の確率解釈に影響 されて、確率量子化の研究が行われた。そこでのアイデアは、最小作用の原理 を (ランダムな動きをする粒子の力学である) 量子力学にも適応することである。ランダムな関数の数学的理論は、確率過程論である。その変分解析は、W.H.Fleming 教授によって定式化された確率最適制御理論である。本講演では、新しいタイプの確率最適制御理論として講演者により定式化された確率最適輸送問題について、その概略を紹介する。



.lg-outer.lg-pull-caption-up.lg-thumb-open .lg-sub-html {bottom:80px;}

5 images

[<6>]

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/seminar/2016/015>

Last update: **2017/11/18 22:32**

